

建設経済常任委員会委員長報告

去る6月3日の本会議において、議長から本委員会に付託されました案件は、議案1件及び請願1件です。本委員会は、所管部課長等の出席を求め審査を行いました。以下審査の経過と結果について順次報告いたします。

記

- 1 審査年月日 令和3年6月7日(月)
- 2 場 所 委員会室2
- 3 出席委員 湯沢美恵、工藤日出夫、今関公美、諏訪善一良、
島野和夫、黒澤健一、滝瀬光一
- 4 審査結果

「議案第36号」市道の路線の認定については、挙手全員により原案のとおり可決すべきものと決定しました。

「議請第4号」「2030年エネルギー基本計画」の改定は脱炭素、脱原発を進め、再生可能エネルギー電力の割合を高めることを求める意見書の提出を求める請願については、挙手全員により採択すべきものと決定しました。

◎「議案第36号」について

(1) 「今回の市道認定路線の西側には勝林雨水幹線があり、大雨による氾濫で中央保育所までの道が冠水した経緯がある区域だが、具体的な雨水対策はどのようにしているのか」と質疑したところ、「公共下水道の処理区域になるため、汚水と雨水は分離して処理し、道路には通常の舗装を使っていますが、側溝には浸透式のU字溝を設置、さらに傾斜地の一番低い道路側溝には鉄製のグレーチング蓋を使用し排水機能を上げる対策をしています」との

答弁がありました。

本案に対する討論はありませんでした。

◎「議請第4号」について

本請願審査では、紹介議員及び参考人を招請し審査を行いました。

はじめに、紹介議員から請願趣旨の説明を受け、請願人の意見陳述を行った後、質疑・答弁がありましたので、その内容について主なものを申し上げます。

(1) 「請願事項1に2030年度の再生可能エネルギー電力目標を45%以上とあるが、2021年度現在の状況とその他の主な発電の比率について」質疑したところ、「再生可能エネルギーは現在約18%となっており、その他原子力発電が6%、火力発電が75%という状況です」との答弁がありました。

(2) 「請願事項2に原子力発電は廃止し、石炭火力発電は段階的に2050年までに廃止とあるが、原子力発電は即時廃止の意向なのか」と質疑したところ、「再生可能エネルギーを増やしつつ、増えた先に原子力発電を減らしていけば良いと考えています」との答弁がありました。

(3) 「原子力発電は廃止し、石炭火力発電は段階的に2050年までに廃止するにあたっての具体的なスケジュールはどのようになっているのか」と質疑したところ、「エネルギー・温暖化問題を専門とする研究者で構成される「未来のためのエネルギー転換グループ」による「レポート2030」では、電力消費量が2010年比で、2030年には30%減、2050年には40%減と予想しているため、石炭火力発電及び原子力発電はゼロにして、再生可能エネルギーを40%増やせば電力供給が賄えるのではないかという試算をしています」との答弁がありました。

(4) 「請願事項3に再生可能エネルギーを強力に推進する政策への転換ということで、発電コストの増加により、電気料金が値上がりする懸念がある

ことについて」質疑したところ、「再生可能エネルギーの一つである太陽光発電のコストが年々減少してきていること、また、これからは人口減少、家電も省エネルギー化されていきますので、電気料金もそれに伴って値下がりしていくのではないかと考えています」との答弁がありました。

本請願に対する討論はありませんでした。

以上、報告いたします。

令和3年6月21日

建設経済常任委員会

委員長 滝瀬 光 一

北本市議会議長 工藤 日出夫 様